

手塚治虫の漫画の原点 ～戦争体験と描かれた戦争～

開催趣旨

このたび昭和館では、「手塚治虫の漫画の原点～戦争体験と描かれた戦争～」と題し、特別企画展を開催する運びとなりました。

「鉄腕アトム」「ジャングル大帝」「リボンの騎士」「火の鳥」など数々の作品を生み出し、戦後日本の子どもたちを熱中させた漫画家・手塚治虫。昭和3年(1928)生まれの彼もまた、戦争体験者の一人でした。学徒動員として働きながら、死と隣り合わせの日々の中でも漫画への情熱を燃やし続け、終戦を知った時は漫画が自由に描ける時代が来た喜びを感じました。そして戦後、彼は自らが体験した戦争、そして平和への思いを、様々な漫画にメッセージとして込めてきました。

今回の展示では、手塚治虫の直筆原稿や本人の写真を中心に、当時の実物資料や写真なども展示いたします。

戦後60年を過ぎた現在、手塚治虫が生涯を通じて、子どもたち、大人たちに伝えたかったメッセージを知る機会にさせていただくとともに、戦中・戦後という日本人が最も苦勞した時代をふりかえります。



記

- 【主 催】 昭和館
- 【企画制作】 昭和館・株式会社 手塚プロダクション
- 【会 期】 平成19年3月14日(水)～5月6日(日)
- 【会 場】 昭和館3階 特別企画展会場
- 【入 場 料】 特別企画展は無料(常設展示室は有料)
- 【開館時間】 10:00～17:30(入館は17:00まで)
- 【休 館 日】 毎週月曜日(ただし4月30日は開館)
- 【内 覧 会】 平成19年3月13日(火) 15:00～17:00
- 【所 在 地】 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1
- 【問い合わせ】 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
- 【交通(電車)】 地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口)
J R 【飯田橋駅】から徒歩約10分
- 【交通(車)】 首都高速西神田ランプから約1分
- 【ホーム・ページ】 <http://www.showakan.go.jp>
- 【そ の 他】 有料駐車場有り(普通乗用車のみ・1時間 200円)

ブース構成

第一部 手塚治虫の戦争体験

手塚治虫が15歳の頃(昭和18年)に戦局は次第に激しくなりました。兵庫県宝塚市に住んでいた手塚は、次第に厳しくなる軍事教練や勤労奉仕に従事する一方で、生命の危機にさらされているがゆえに「漫画」への思いは募っていきました。軍需工場の寮や、トロッコの横で、手塚治虫は隠れながら漫画を描き続けました。

昭和20年8月15日、戦争が終わりました。当時、兵庫県宝塚に住んでいた手塚治虫は、8月15日の夜、電車に乗って大阪に出た時、「おお、大阪の街に灯がついている！」と、その明かりを見て、はじめて平和になったという実感がこみ上げてきたといいます。

本コーナーでは、手塚治虫が体験した「戦争」をリアルに感じることができるよう、当時の手塚の写真と本人の手記、当時の様子を描いた漫画、当時の実物資料や写真などで構成します。

○手塚治虫少年の好奇心

映画、宝塚、漫画、アニメーション

資料例) 手塚少年時代の写真、宝塚パンフレット

○学徒動員としての生活

動員生活、隠れて書いた漫画

資料例) 手塚治虫直筆のノート

○大阪空襲

資料例) 罹災品 大阪空襲の写真 など

○終戦

資料例) 玉音放送の写真 など

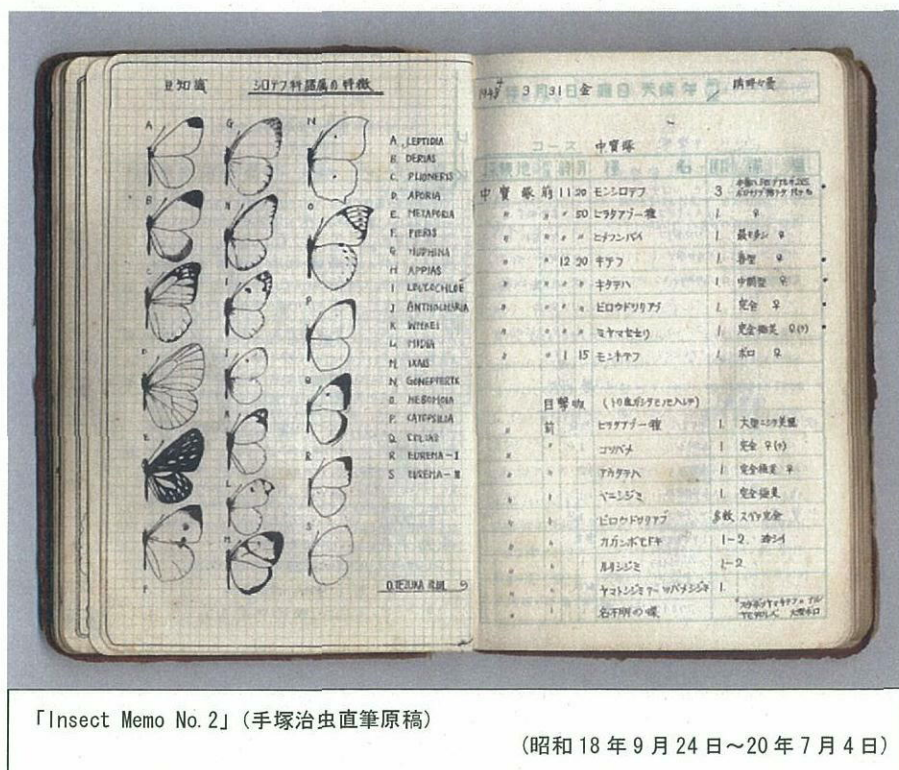
○戦後の暮らし

資料例) ジュラルミン製品、米つきビン
闇市、戦災孤児の写真など



軍事教練で剣道の訓練をする学童

(昭和17年2月撮影、毎日新聞社)



「Insect Memo No. 2」(手塚治虫直筆原稿)

(昭和18年9月24日～20年7月4日)

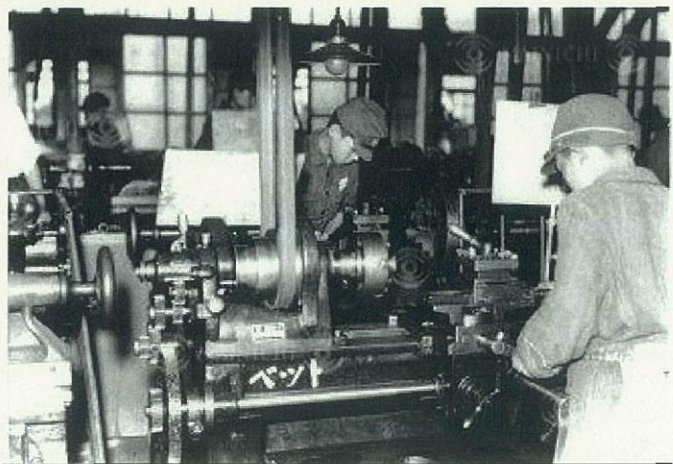


『オヤジの宝島』（手塚治虫直筆）

（昭和20年、◎手塚プロダクション）



北野中学（旧制中学）時代の手塚治虫。これまであまり公開されたことのない戦時中の写真。
（昭和16年～20年頃撮影）



少年産業戦士と呼ばれた少年工員

（昭和17年8月15日撮影、毎日新聞社）

第二部 手塚治虫の描いた戦争

戦中・戦後の体験を通して、手塚治虫には「二度と戦争を起こしたくない」という強い思いが残りました。終戦後、手塚治虫は医者道を捨て、夢に見たマンガ家の道を歩み始めることとなります。

漫画家となった手塚治虫は、自らの作品の中に直接的、間接的に「戦争」を様々な形で描くようになりました。自分自身を主人公に、戦争中の体験を描いたもの。戦争そのものをテーマで描いたもの。そして、戦争に対するメッセージの織り込んで描いたもの。

手塚治虫の漫画の原点には、手塚治虫の「戦争体験」が存在しています。そして、手塚治虫は「二度と戦争をおこさない為」に戦争を語り、メッセージを送り続けていきます。

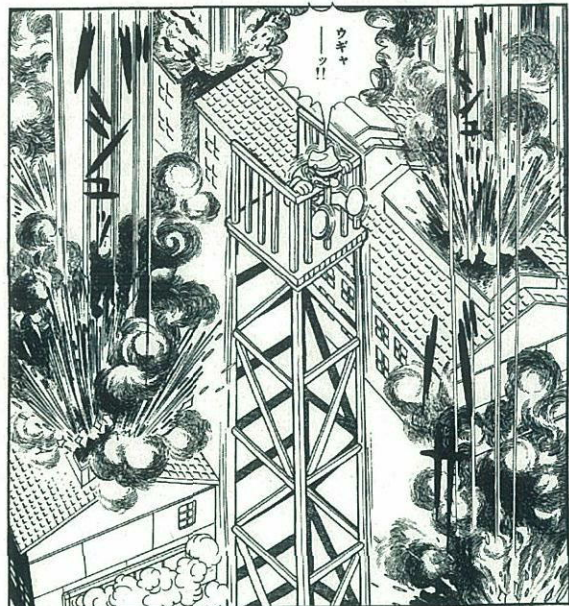
本コーナーでは、手塚治虫が「戦争」について描いた直筆原稿を、様々な視点による分類を行い展示いたします。これらを通じて、手塚治虫の思いを感じていただきたいと思います。

＜直筆原稿紹介作品＞

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| ○「紙の砦」 | ○「どついたれ」 | ○「鉄腕アトム」 |
| ○「カノン」 | ○「W3」 | ○「低俗天使」 |
| ○「どろろ」 | ○「火の鳥 復活編」 | ○「火の鳥 未来編」 |
| ○「来るべき世界」 | ○「ブラックジャック」 | ○「アドルフに告ぐ」 |



『低俗天使』
(週刊少年ジャンプ 昭和 50 年 5 月 12 日号掲載)
◎手塚プロダクション



『紙の砦』
(週刊少年キング 昭和49年9月30日号掲載)
◎手塚プロダクション

「手塚治虫伝 マンガ篇」上映（25分） 特別企画展会場内

手塚治虫の半生と作品を写真とアニメーションでつづる短編作品。そのおいたちや、戦争中のこと、マンガ家デビュー、映画的手法といわれる「新寶島」の秘密、大阪の赤本単行本時代、人気マンガ家としての作品世界、多忙な日々などを紹介します。展示期間中、特別企画展会場においてエンドレスで上映します。

イベントの開催

【講演会】

期日：平成19年3月21日（水）14:00～16:00

タイトル：「手塚治虫と戦争体験」

講師：石子順（評論家・日本漫画家協会参与）

会場：九段会館 孔雀の間（約70名）

※ 当日、13:00から整理券を昭和館1階ロビーで配付します。

【講師プロフィール】

漫画評論家、映画評論家。昭和10年京都市生まれ。昭和 28 年中国から帰国。東洋大学文学部卒。中国瑛映画の字幕翻訳を経て、映画評論活動始める。昭和42年に手塚治虫と出会い、漫画研究を始め、以後手塚氏と交流。前和光大学表現学部教授。著書に『手塚治虫 未来からの使者』（童心社）など。ちばてつや、森田泰次たちとの共著『中国からの引揚げ 少年たちの記憶』で第6回文化メディア芸術祭特別賞受賞。

【GWスペシャル・子どもイベント「昔の遊びと紙芝居」「鉄腕アトムがやってくる！」】

期日：平成19年5月3・4・5日（木・金・土） 10:00～15:00

○親子で遊ぼう、昔の遊び

メンコ、けん玉、お手玉、おはじき、かたぬき など

○昔懐かしい「あめ細工」実演

限定数で、子どもたちに無料配付！

○梅田佳声さんによる紙芝居上演

時間：11:00～、13:00～

○「鉄腕アトムがやってくる！」（握手会・撮影会）

時間：10:00～、12:00～、14:00～

○昭和館クイズラリー

特別企画展特製クリアファイルをプレゼント！